

大阪市環境審議会 第1回生物多様性部会 会議要旨

1 日 時 平成29年6月23日（金） 午前10時から午前11時50分

2 場 所 あべのルシアス12階 大阪市環境局第1会議室

3 出席者

（委員）

花田部会長、上甫木委員、佐々木委員（専門委員）、平井委員（専門委員）、深町委員（専門委員）、宮川委員（専門委員）

（事務局等）

北辻環境局長、青野理事兼エネルギー政策室長、堀井環境施策部長、岡本環境施策課長 他

4 議 題

「（仮称）生物多様性大阪戦略（たたき台）」について

5 議事要旨

「（仮称）生物多様性大阪戦略（たたき台）」について

資料に基づき、事務局より標記戦略（たたき台）の策定スケジュール・概要・具体的施策等について説明を行い、意見をいただいた。主な意見の要旨は次のとおり。

<目標について>

- 第1章の目標、第4章の課題を受けて、第5章の取組みにつながるように、第5章の前に再度目標を書いたほうがよいのではないか。
- 生物多様性の認知度について、数値を高くしたほうがよいのではないか。
- この3年間では仕組みづくりが重要であり、その次の10年間につなげるべき。
- 2020年度の目標なので、SDGsより愛知目標のほうが適切だと思う。
- 2050年のめざすまちの姿について、「もっと」という比較級ではいけない。2050年時点の理想像を示すべき。

<具体的施策について>

- 具体的施策の実施主体を書き込むべき。
- 生物多様性の拠点について、生物多様性関連施設や建物が記載されていないのでわかりにくい。
- たたき台9頁「生物多様性スポット」と15頁「生物多様性ホットスポット」の違いが不明確。
- No.18について、市民に対して、ペットを放さない等の取組みが外来種の拡散防止につながるという考え方を普及啓発する必要がある。
- No.19、No.20について、緑地面積を増やすだけではなく、緑の質を上げることが必要ではないか。

<グリーンインフラについて>

- 都市部の目標としてグリーンインフラは重要であり、大阪市が全面的に取り上げていいキーワードである。

<生物多様性の捉え方>

- 市民に「幸せな生活を都市部で送るために生物多様性を保全する必要がある」と意識づけることが重要。

<市民への周知等>

- 環境審議会での中間報告の後（11月頃）に市民との意見交換をする機会をイベント等につくれないか。

<大阪市と生物多様性とのつながりについて>

- H23年度答申の5頁から9頁をたたき台に反映していただきたい。
- 「はじめに」で、大阪市が周辺とのつながりの一部であることを触れるべきではないか。市内の次に世界について記載するのは飛躍しすぎている。

<タイトル・表紙について>

- タイトルの「大阪」は「大阪市」とする等、大阪府と区別するほうがよい。
- 表紙には、シンボルとなる生き物や植物を入れてほしい。

<推進体制について（たたき台31頁）>

- 綺麗な図だが、どの自治体でも描ける。
- キーワードはインバウンド。外国人観光客に生物多様性に配慮した都市部のあり方を知ってもらうことが、国際貢献や他都市との差別化になる。また、外国人だけではなく、大阪市への来訪者すべてに同じことが言える。
- 市民や事業者等の役割に記載されている「市が実施する施策への協力」は当然のことであり、それよりもより前向きに「地域に根差した提言をする」とすべき。

6 資料

- (1) 大阪市環境審議会 第1回生物多様性部会 次第
- (2) (資料1) 「(仮称)生物多様性大阪戦略(たたき台)」の策定スケジュール
- (3) (資料2) 「(仮称)生物多様性大阪戦略(たたき台)」の概要
- (4) (資料3) 「(仮称)生物多様性大阪戦略(たたき台)」
- (5) (別添1) 大阪市における生物多様性地域戦略のあり方について(諮問)
- (6) (別添2) 大阪市の生物多様性地域戦略のあり方について(答申)
- (7) (別添3) 大阪市環境審議会 生物多様性部会 委員名簿